

原子力3倍宣言

今世紀半ば頃までに世界全体で温室効果ガス排出のネット・ゼロ／カーボン・ニュートラルを達成し、気温上昇を1.5°Cに抑えることを射程に入れ、持続可能な開発目標（SDGs）7を達成するにあたっての、原子力の重要な役割を認識し、

気候変動の監視とその影響への取り組みに貢献する、原子力科学及び技術の応用の重要性を認識し、この点で、国際原子力機関（IAEA）の取組を強調し、

原子力エネルギーは既に、クリーンで制御可能なベースロード電源として、エネルギー安全保障に利益をもたらす、2番目に大きな電源であることを認識し、

OECD 原子力機関および世界原子力協会の分析によれば、世界全体の2050年までの排出ネット・ゼロを達成するためには、同じく2050年までに世界の原子力設備容量を3倍にする必要があることを認識し、

気候変動に関する政府間パネルの分析によれば、平均1.5°Cシナリオでは、2020年から2050年にかけて、世界の原子力発電設備容量が約3倍に増加することを認識し、

国際エネルギー機関（IEA）の分析によれば、2050年までの世界の排出ネット・ゼロのシナリオにおいて、2020年から2050年にかけて、原子力発電が2倍以上に増加し、また原子力が減少すればネット・ゼロの達成は困難かつ高コストになることを認識し、

新しい原子力技術は、土地占有面積が小さく必要な場所に設置できる可能性があり、再生可能エネルギーと良く協働し、排出削減が困難な産業部門を含む、電力部門以外の脱炭素化を支える追加的な柔軟性を有することを認識し、

IAEAによる、加盟国の要請に応じて、最高水準の安全、セキュリティ及び保障の基準を遵守した持続可能な方法で、原子力発電を国家のエネルギー計画に含めることを支援する活動や、利害関係者が専門知識を共有する機会としての「Atoms4NetZero」イニシアチブを認識し、

気温上昇を1.5°Cに抑えることを射程に入れ続けるために必要な原子力の発電容量の追加に向けた資金調達の重要性を認識し、

原子力に関する更なる行動を促進するための、ハイレベルの政治的関与の必要性を認識し、

この誓約の参加国は、

各参加国の異なる国内事情を認識しつつ、2050年までに2020年比で世界全体の原子力発電容量を3倍にするという野心的目標に向けた協働にコミットする。

原子力発電所が最高水準の安全性、持続可能性、セキュリティ、核不拡散性に沿って、責任を持って運営され、また、燃料廃棄物が長期にわたり責任を持って管理されることを確保するための国内措置を講じることにコミットする。

革新的な資金調達メカニズムを含め、原子力発電への投資を動員することにコミットする。

世界銀行、国際金融機関、地域開発銀行の株主に対し、各機関のエネルギーへの融資の方針に必要なに応じて原子力を含め、そのような権限を持つ場合には原子力発電を積極的に支援することを要請し、また、そのような権限を持つ地域機関に対し、原子力発電への財政支援を検討するよう奨励する。

発電だけでなく、水素や合成燃料の製造など、脱炭素化に向けた幅広い産業への適用のための、小型炉やその他の革新炉などの原子炉の開発と建設を支援することにコミットする。

原子力発電所のライフサイクル全体にわたって使用される安全で確実な技術のため、燃料を含むサプライチェーンの強靱化を推進することの重要性を認識する。

技術的に実行可能であり、経済的に効率的である場合には、最高水準の安全性、持続可能性、セキュリティ、及び核不拡散性に沿って運転される原子力発電所の寿命を延長することの重要性を認識する。

最高水準の安全性、持続可能性、安全保障、及び核不拡散の下で新たな民生用原子力の展開を模索する、責任感のある国々を支援することにコミットする。

民間セクター、非政府組織、開発銀行、金融機関からの補完的なコミットメントを歓迎し奨励する。

毎年、COPの期間中に、これらのコミットメントに向けた進捗状況をレビューすることとする。

他の国々に対し、本宣言への参加を呼びかける。